

コミュニティセンターの利用状況について

⑥ 吉祥寺西コミュニティ協議会	1 頁
⑦ 吉祥寺北コミュニティ協議会	2 頁
⑧ けやきコミュニティ協議会	3 頁
⑨ 中央コミュニティ協議会	4 頁
⑩ 西久保コミュニティ協議会	5 頁
⑪ 緑町コミュニティ協議会	6 頁
⑫ 八幡町コミュニティ協議会	7 頁
⑬ 関前コミュニティ協議会	8 頁
⑭ 西部コミュニティ協議会	9 頁
⑮ 境南コミュニティ協議会	10 頁
⑯ 桜提コミュニティ協議会	11 頁
(参考)第2回委員会資料 (①～⑤)	12 頁以降

6. 吉祥寺西コミュニティセンター

1 施設概要

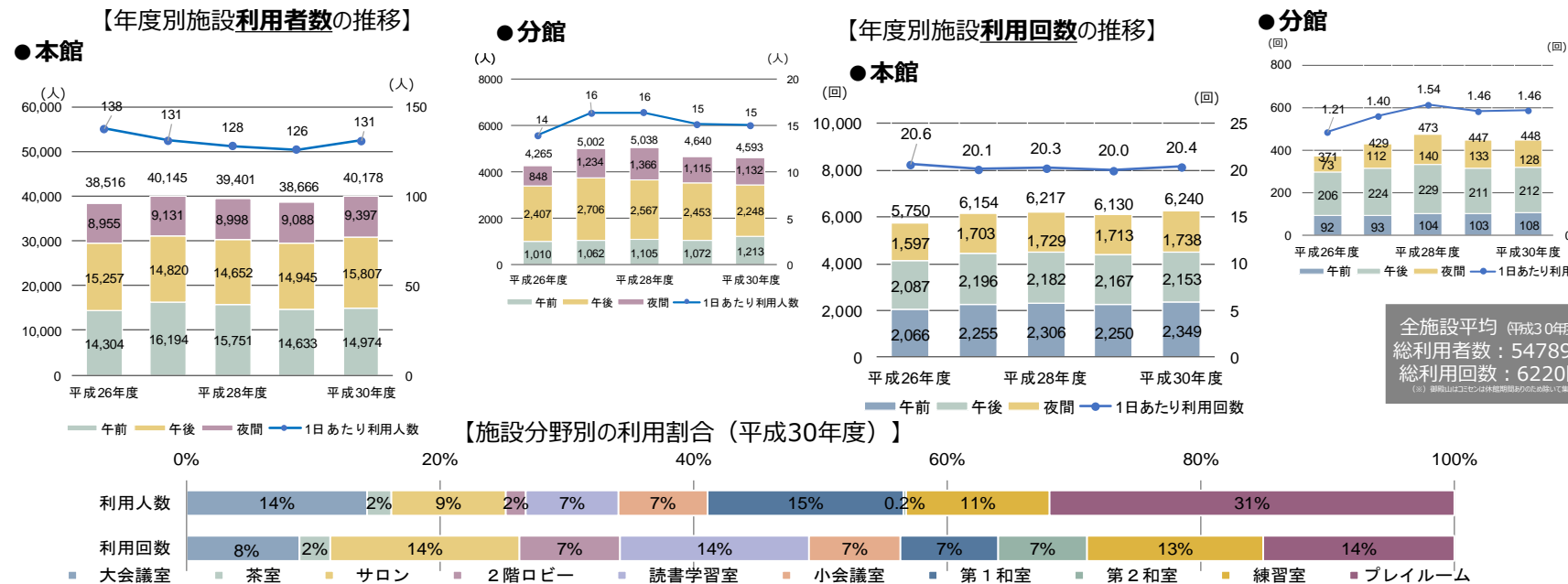
- 施設名 : 吉祥寺西コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 吉祥寺西コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町3丁目20番17号
- 開館時間 : 午前9時00分～午後9時00分
- 事業開始・開設日 : 平成元年2月18日

【所在地】



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は本館40,178人、分館4,593人であり、1日あたりの利用人数は本館131人、分館15人（開館日数:306日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）はほぼ横ばいである。
- 利用回数（総数）は平成30年度で本館6,240回、分館448回で、1日あたり利用回数は本館20.4回、分館1.46回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではサロン、読書学習室、プレイルームの利用割合が他と比べて高かった。



3 主な実施事業

事業数: 30
(主催: 26 共催・協賛: 4)

- 特に注力している事業（例）
 - ＜井ノ頭通り美化活動＞
 - 成蹊通りの交差点からコミセン入口の交差点までの井ノ頭通りの街路樹植え込みにおいて、月に2回、花の手入れとゴミ拾いを行った。
 - ＜あそぼうよ＞
 - 小学校低学年の遊び場として立ち上げた事業で、餅つき等を行った。
 - ＜あるこうかい＞
 - 人や自然、街並等との新しい出会いを楽しみ、語らいながら歩くイベントとして「あるこうかい」を実施した。年4回、約15,000歩を目途に計画している。
 - ＜あじさいひろば＞
 - 吉西福祉の会（地域社協）との共催事業で、高齢者の居場所と高齢者のつながりづくりを行う取り組みを行った。
- その他、特徴的な事業
 - (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例）)
 - 地域住民にコミセンに親しんでもらうことを目的に、マスターが選んだ銘柄のコーヒーを提供する「ホっとcafé」を開催した。

4 自己評価

- 【成果】
- 30周年行事に向けた準備の中で、運営委員の結束が強まった。
 - 「窓口業務マニュアル」の改訂など、利用しやすいコミセンづくりに向けた取り組みを実施できた。
 - 小中学校との連携が以前より密になったことで、生徒や保護者がコミセンの活動に対し協力的になった。
 - 市報やポスターによるPRの効果で、徐々に取り組みが広がりを見せていると感じる。
- 【課題】
- 運営委員の担い手不足が深刻だが、有効な策を講じられていない。また、運営委員の高齢化も課題となっている。
 - 災害時のコミセンの立場を自主防災組織と意見交換によって明確にするなど、関係団体との調整・連携が必要である。
 - 地域のアパート、マンション等への新規流入の住民に対して、働きかけが不足していた。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	B	B	・①「運営委員会などの会合への呼びかけは十分ですか」、②「住民総会の呼びかけは、工夫して行われていますか」③「文化祭など各種行事への参加は十分」は改善。 ・⑤「運営委員・協力員確保のための努力や工夫」、⑥「広報誌以外の方法での広報は十分」⑦「コミュニティの活動は、住民の方々に広く知られていると思うか」は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	B	B	B	・①「地域住民の要求や課題について、協議会で話し合う機会を持ちましたか」③「その取り組みは、住民の方々に満足されたと思います」は下降。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	B	B	B	-	・コ「防犯協会」ス「赤十字奉仕団」は改善。 ・ウ「PTA」カ「高校・大学」ケ「地元商店会」サ「消防関係」シ「老人クラブ」ソ「障害者施設」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	B	A	B	A	B	・①「利用者の立場に立って、気軽に立ち寄り、気持ちよく利用できるよう、気をつけていますか」改善。 ・②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応」、③「利用者に不快な思いをさせた場合や苦情などに適切に対応していますか」④「施設の利用方法等で工夫」⑤「窓口担当者同士の連携」は下降。
⑤適正な管理・運営	B	B	B	A	B	・④「個人情報の保護について、適切に対応していますか」⑥「予算は適切に使われていますか」は下降。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分

7. 吉祥寺北コミュニティセンター

1 施設概要

- 施設名 : 吉祥寺北コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 吉祥寺北コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町1丁目22番10号
- 開館時間 : 午前9時00分～午後8時50分
- 事業開始・開設日 : 昭和54年6月1日

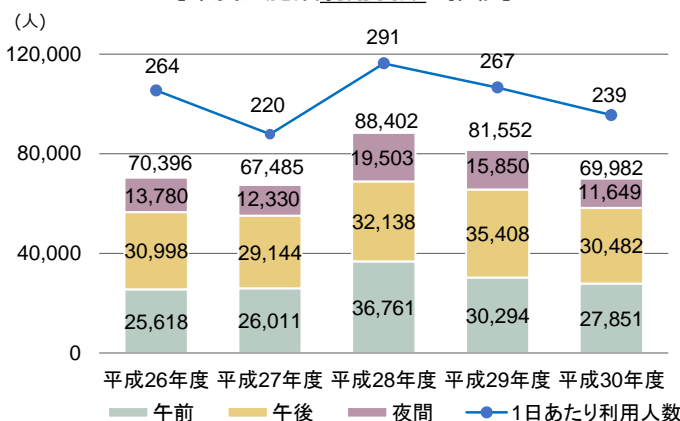
【所在地】



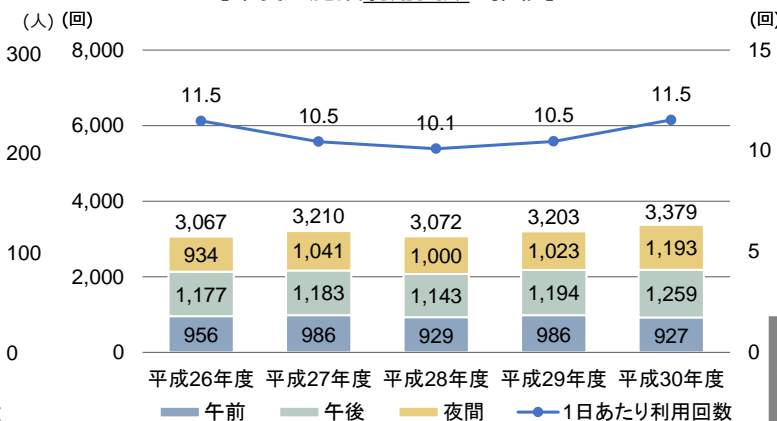
2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は69,982人であり、1日あたりの利用人数は239人（開館日数:293日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で3379回、1日あたり利用回数は11.5回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、体育館、学習室が他と比べて高かった。

【年度別施設利用者数の推移】

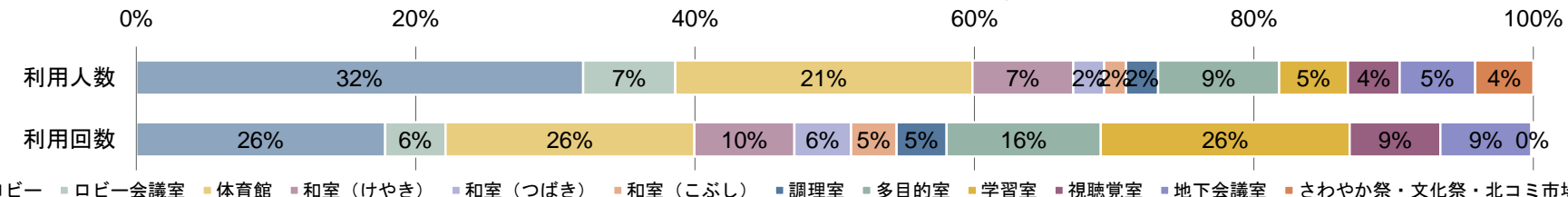


【年度別施設利用回数の推移】



全施設平均 (平成30年度)
総利用者数: 54789人
総利用回数: 6220回

【施設分野別の利用割合（平成30年度）】



3 主な実施事業

事業数: 44

(主催: 31 共催: 協賛: 13)

■特に注力している事業 (例)

- <脳トレ体験講座>
 - 企業研修で活用されている手法を学び、記憶力向上など脳の働きを活性化させる体験講座を行った。
- <親子で楽しむプログラミング体験教室>
 - 親子で一緒にプログラミングの基礎を楽しく学んだ。
- <親子劇場>
 - 人形劇団こぼんによる人形ファンタジーを上演した。
- <七夕笹かざり>
 - 子どもたちに願いを短冊へ書いてもらう内容で、小さな笹枝のお土産も用意した。

■その他、特徴的な事業

- (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業 (例))
- 今年は湘南地域をテーマに「バス研修会」を行い、熊野酒造・江ノ島散策・おぎのパンを訪問した。
- 武蔵野市在住の水彩画家大須賀一雄さんを講師に迎える人気の高い「水彩画」教室を開催した。
- 幼児対象の映画会「こども映画会」を年12回開催した。
- 市の子ども政策課と連携してコミセン親子広場を開催した。
- 吉祥寺南病院の院長を招いて講演会を開催した。

4 自己評価

【自己点検・評価表の結果】

【成果】

- 問題点を運営委員会などで話し合う機会が増えた。
- 利用団体の方にとって受付のハードルが低くなったこと。
- 「プログラミング教室」等の新規企画に取り組んだこと。
- 文化祭・さわやか祭等の大きなイベントを、少ない運営委員ながらも外部からの協力をもらい、やり遂げられた。
- 運営委員に世代交代の流れが感じられた。

【課題】

- 広報誌への工夫が不十分で変化がない。
- 運営委員全員が積極的に発言できる場が整えられていない。
- 運営委員内のコミュニケーションや助け合い・チームワークが不足している。
- 運営委員会での討議が紛糾するなどして、本筋の議論が十分にできなかった。
- 話し合った内容を決定につなぐことが不十分だった。

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	B	B	・⑩「広報誌以外の方法での広報は十分に行われていますか」は改善。 ・③「運営委員会の決定事項などについて、全委員への周知」④「運営委員の十分な人数の確保」の評価は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	B	B	B	・④「協議会主催の独自の企画や事業は、十分に行われていますか」は改善。 ・③「その取り組みは、住民の方々に満足されたと思いますか」の評価は下降。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	B	B	B	—	・「青少協地区委員会」は改善 ・「地域社協」「PTA」「警察関係」「高齢者福祉施設」とのネットワーク化は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	A	B	A	A	A	・①「利用者の立場に立って、気軽に立ち寄り、気持ちよく利用できるような気を付けているか」③「利用者に不快感をさせた場合や苦情などに適切に対応しているか」④「施設の利用方法等で工夫しているか」は改善。
⑤適正な管理・運営	A	A	—	A	A	・②「協議会の会則や利用の決まりを十分に理解しているか」、③「協議会の会則や利用の決まりを日頃から気をつけて運営しているか」は改善。 ・①「やりがいや楽しさを実感できるような協議会の運営か」、④「個人情報の保護について、適切に対応しているか」、⑤「事業は計画的・効率的に行われているか」の評価は下降。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分

8. けやきコミュニティセンター

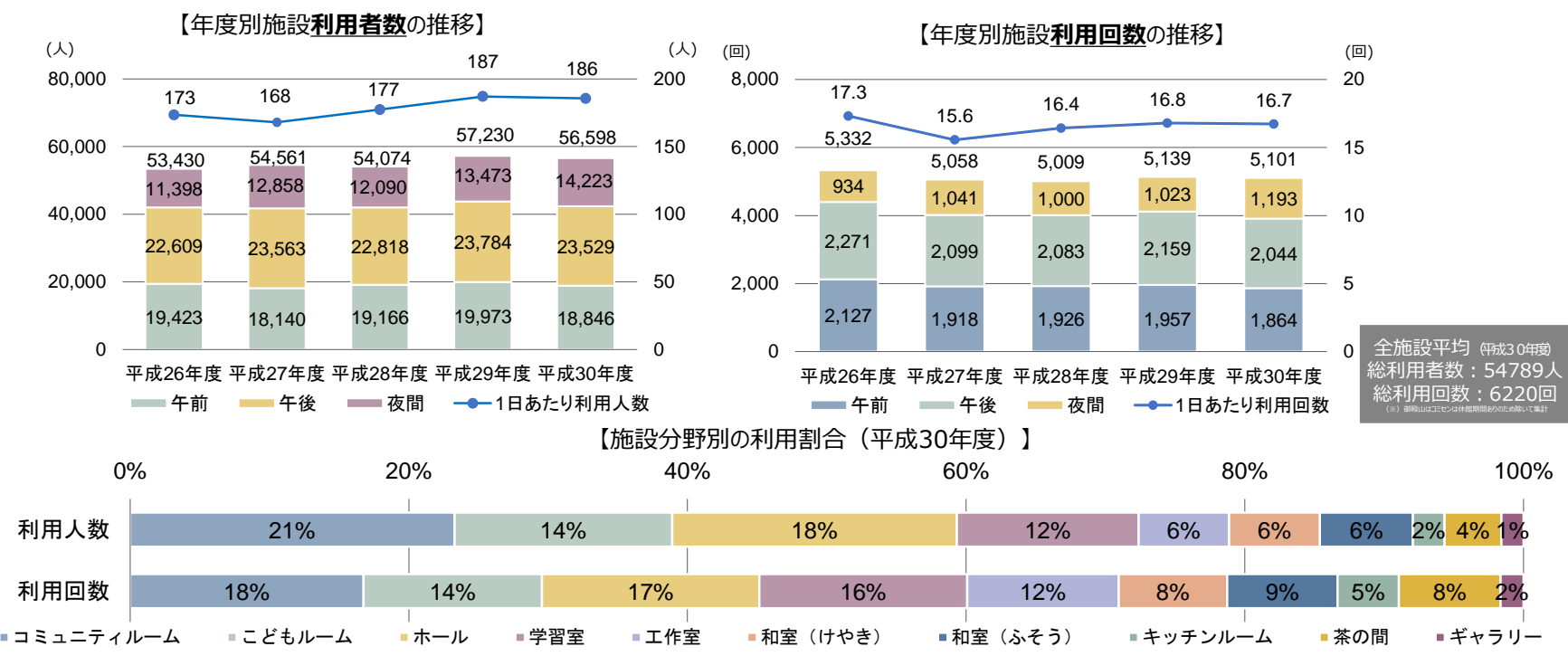
1 施設概要

- 施設名 : けやきコミュニティセンター
- 運営協議会名 : けやきコミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町5丁目6番19号
- 開館時間 : 午前9時30分～午後9時30分
- 事業開始・開設日 : 平成元年12月16日



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は56,598人であり、1日あたりの利用人数は186人（開館日数:305日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は増加傾向にあるものの前年度と比べると若干減少している。
- 利用回数（総数）は平成30年度で5101回、1日あたり利用回数は16.7回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではコミュニティールーム、ホール、学習室の利用割合が他と比べて高かった。



3 主な実施事業

- 事業数：36 (主催：34 共催・協賛：2)
- 特に注力している事業（例）
 - ＜まちづくりフェスタ＞
 - 野外映画を上映し、手作りおでんで温まりながら映画を鑑賞した。
 - ＜けやきこもれびひろば＞
 - 扶桑通り公園にシートを広げ、おもちゃ遊びや絵本読み聞かせ、ピクニックランチを楽しんだ。
 - ＜ナイトウォーク＞
 - コミセンを起点に50分、約5,000歩を目標にしてウォーキングを行った。前後二人が防犯灯を携帯し、地域防犯に貢献できている。
 - その他、特徴的な事業
 - （※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例））
 - 緑町コミセン・青少協・大野田あそべえと共催し大野田小学校で「どんど焼きとむかしあそび」を開催。よさこいの演技と今年初めての獅子舞いでお焚き上げも盛り上がり、地域の方の無病息災を願った
 - 文化企画として「川上村ライブツアー」を開催し、自然の中で素敵な音楽を聴きながら楽しく交流した。
- ／等

4 自己評価

- 【自己点検・評価表の結果】
- 【成果】
- 3大イベント（けやきまつり、夏まつり、どんど焼き）を通して、近隣のコミュニティづくりに貢献でき、地域に根付いてきたと実感することが出来た。
 - 運営委員・地域住民・市との話し合いによって、エレベーター設置を決定した。
 - 利用者のことを考え、役割分担の各係がスムーズに運営できるよう工夫した。
 - まちづくり局の活動では、活動に幅広い人々が参加できるようになった。
 - 運営委員会の参加率が高く、皆で協力しながら議論を進められた。
 - 支え合いステーションが自主防災組織と連携して防災訓練を実施した。
 - 充実した文化企画を開催できた。
- 【課題】
- イベントのみならず、コミセンの活動自体に興味をもってもらうことが課題である。
 - 運営委員の推進力が消極的と感じられることが時々見受けられ、コミュニティ活動に対して意欲に欠けてきているように思われることがあった。
 - 窓口業務の改善を目指し、引き続き研修を繰り返し行っていく必要がある。

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	B	A	・④「運営委員の十分な人数の確保は十分か」、⑩「広報誌以外の方法での広報は十分か」、⑪「文化祭など各種行事への参加は十分か」は改善。 ・⑧「広報誌の年間発行回数は適当か」は下降。
②コミュニティ活動の活性化	A	B	B	B	B	・④「協議会主催の独自の企画や事業は、十分に行われていますか」は改善。
③コミュニティ活動のネットワーク化	C	B	B	B	B	・ソ「障害者施設」とのネットワーク化は改善。 ・工「保育園・幼稚園」ク「警察関係」コ「防犯協会」セ「高齢者福祉施設」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	B	B	A	B	A	・過年度と同じ傾向である。
⑤適正な管理・運営	A	A	A	B	A	・①「やりがいや楽しさを実感できるような協議会の運営」、②「協議会の会則や利用の決まりの十分な理解」は改善。 ・③「協議会の会則や利用の決まりを日頃から気をつけて運営」は下降。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分

9. 中央コミュニティセンター

1 施設概要

- 施設名 : 中央コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 中央コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0006 東京都武蔵野市中町3丁目5番17号

- 開館時間 : 午前9時30分～午後9時30分
- 事業開始・開設日 : 昭和57年2月6日

【所在地】



2 施設の利用状況

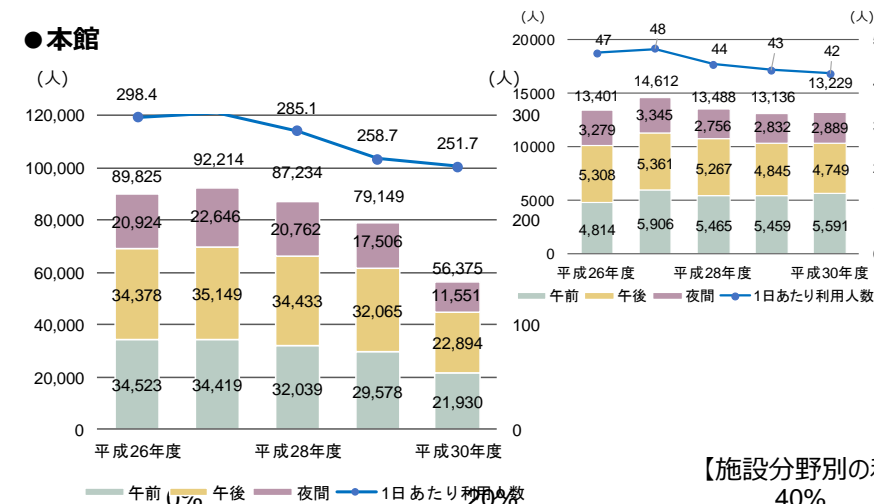
- 平成30年度の利用者数（総数）は本館56,375人、分館13,229人、1日あたりの利用人数は本館251.7人、分館42人（開館日数:本館224日、分館314日）であった。本館は平成30年度3か月休館であったものの、利用人数は若干減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で本館3,501回、分館1,373回、1日あたり利用回数は本館15.6回、分館4.4回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、多目的室、第一会議室の利用割合が他と比べて高かった。

3 主な実施事業

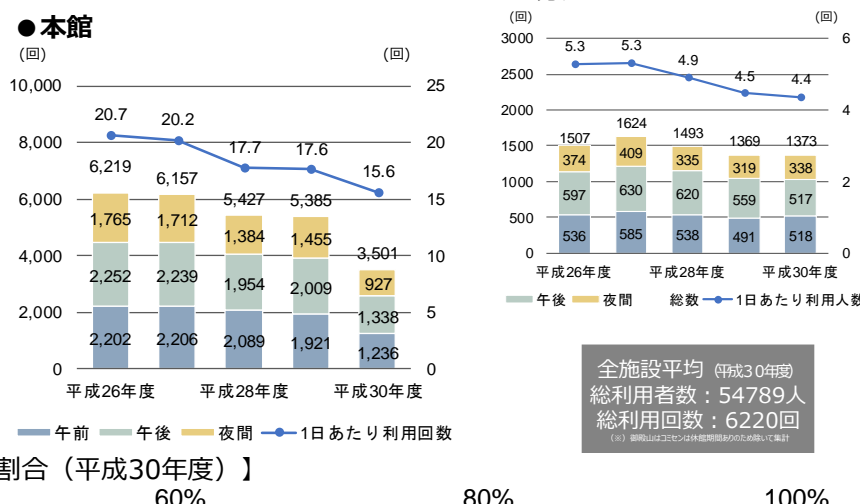
事業数 : 32
(主催 : 26、共催・協賛 : 6)

- 特に注力している事業（例）
 - ＜もちつき＞
 - 子どもと大人で地域交流した。
 - ＜料理教室＞
 - “世界の料理を作ろう”をテーマに学校給食「ルーマニア」を作った他、そば打ち体験教室を開催した。
- その他、特徴的な事業
 - (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例）)
 - 「ピンポンの日」は4月～11月の毎月第4土曜日の午後、子どもを対象に多目的室を開放した。
 - 運営委員を対象に、中町集会所で「自衛消防訓練」を実施した。
 - 歩こう会「歴史探訪」で、愛宕神社と増上寺を訪れたり、大國魂神社から郷土の森博物館を歩いたりした。
 - 中央福祉の会との共催で、「親子ニコニコ広場」を開催した。
 - 館外研修で、箱根ラック美術館と箱根関所を訪れた。
 - バスハイクで、よみうりランド「ジュエルミネーション」を訪れた。

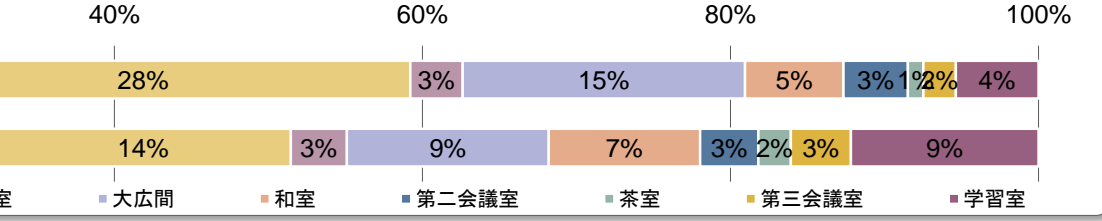
【年度別施設利用者数の推移】



【年度別施設利用回数の推移】



【施設分野別の利用割合（平成30年度）】



全施設平均 (平成30年度)
総利用者数 : 54789人
総利用回数 : 6220回
(※ 調理学はコモンは外館期間のため集計)

4 自己評価

- 【成果】
- 創立40周年の今年度は夏まつり、文化祭その他事業活動において工夫を凝らした企画運営をし、多くの来場者を迎えられた。
 - 地域コミュニティを含め各種事業企画の満足度が高く、リピーターも多い。
- 【課題】
- 修繕等の工事日程の遅れにより事業会場の変更等があり、多少まごつくこともあった。
 - 運営委員の高齢化もあり、人員確保が急務である。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	A	B	A	A	B	・④「運営委員の十分な人数の確保」⑤「協力員の十分な人数の確保」⑩「広報誌以外の方法での広報の十分な実施」は改善 ・③「運営委員会の決定事項などについて、全委員への周知」の評価は下降。
②コミュニティ活動の活性化	A	A	A	C	A	・①「地域住民の要求や課題について、協議会で話し合う機会を持ちましたか」は改善。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	B	B	B	—	・イ「青少協地区委員会」オ「小・中学校」ケ「地元商店会」サ「消防関係」とのネットワーク化は改善。 ・工「保育園・幼稚園」キ「地元自治会・町内会」ク「警察関係」コ「防犯協会」ク「障害者施設」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	A	B	A	A	A	・②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応は十分か」③「利用者に不快感をさせた場合や苦情などに適切に対応しているか」④「施設の利用方法等で工夫」は改善。
⑤適正な管理・運営	A	A	A	A	A	・②「協議会の会則や利用の決まりを十分に理解していますか」は改善。

※ 平成27年度、平成28年度の個別設問に対する回答がなかったため、平成29年度と30年度の比較をもって近年の傾向とした。
※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分

10. 西久保コミュニティセンター

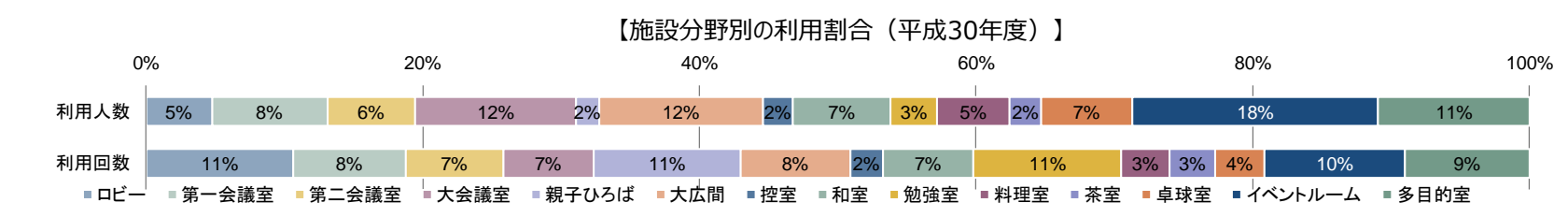
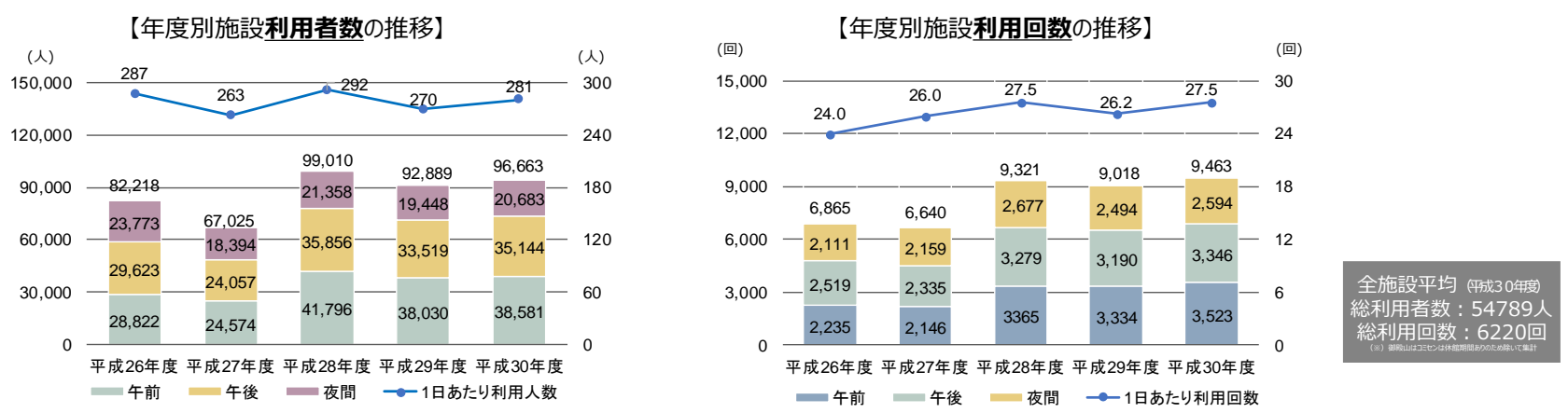
1 施設概要

- 施設名 : 西久保コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 西久保コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0013 東京都武蔵野市西久保1丁目23番7号
- 開館時間 : 午前9時30分～午後9時30分
- 事業開始・開設日 : 昭和52年1月22日



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は96,663人であり、1日あたりの利用人数は281人（開館日数:344）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）はほぼ横ばいである。
- 利用回数（総数）は平成30年度で9463回、1日あたり利用回数は27.5回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、親子広場、勉強室の利用割合が他と比べて高かった。



全施設平均（平成30年度）
総利用者数：54789人
総利用回数：6220回
（※ 朝晩山はコミセンは休館期間ありのため集計）

3 主な実施事業

事業数：29
（主催：29 共催・協賛：-）

- 特に注力している事業（例）
 - ＜多摩湖往復ナイトハイク＞
 - 五中通学区域の中学生を対象に、往復26kmを歩いた。
 - ＜西久保を語ろう会＞
 - 山谷通り今昔のお話を聞きながら交流した。
 - ＜どんど焼き＞
 - 西久保公園でお正月飾りを焼いて無病息災を願った。
- その他、特徴的な事業
 - （※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例））
 - 講師を招いて筋力維持増進に有効な食事術を学ぶ講座を開いた。
 - 「クリスマス会とカフェ」では幼児・小学生を含めた地域の人々で交流した。
 - 「人形劇」で幼児を対象に劇団による劇を鑑賞した。
 - 「子ども科学教室」を年3回開催し、天体観測・プラスチック循環の仕組みを学習・分光盤作りと太陽のお話のように毎回異なるテーマに取り組んだ。
 - 「フリーマーケットとエコカフェ」では不用品のリサイクルとエコ手芸、カフェで交流や、地元野菜や鉢花の販売した。

4 自己評価

- 【成果】
- 他団体、利用団体、運営委員、協力員が協力して、コミセン祭りをはじめとして成功することができた。
 - 運営委員会等で話し合える場が設けられている。
 - 地域団体とのコミュニケーションがとれていて、共催事業も多い。
- 【課題】
- 運営委員及び窓口担当者を増やすこと。
 - 行事に参加してもらっても、運営委員になるという段階までは進まない。
 - 窓口対応の改善が求められる。
 - 地域住民の要求や議題の収集をどのようにするか、他のコミセンの例も参考にしながら検討したい。
 - 防犯・防災面で警察・消防と連携していく必要がある。
 - 運営委員・窓口担当者の高齢化に伴い、新規募集活動が少なかつたため、50～60代の若い人の参加をもっと増やす必要がある。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	B	B	・①「住民総会の呼びかけの工夫」②「住民総会への参加は十か」は改善 ・③「文化祭など各種行事の呼びかけの工夫」④「住民の積極的な参加」は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	B	B	B	・①「地域住民の要求や課題について、協議会で話し合う機会を持ったか」②「その要求や課題について、何らかの取り組みを行ったか」は改善。 ・③「その取り組みは、住民の方々に満足されたと思うか」は下降。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	B	B	B	-	・「E」保育園・幼稚園が「高校・大学」が「警察関係」が「消防関係」が「老人クラブ」が「赤十字奉仕団」が「セ高年齢福祉施設」とのネットワーク化は改善。 ・「A」地域社協「I」青少協地区委員会「K」地元商店会「C」防犯協会「J」障害者施設は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	B	A	B	A	B	・①「利用者の立場に立って、気軽に立ち寄り、気持ちよく利用できるよう、気をつけているか」②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応は十分か」③「利用者に不快な思いをさせた場合や苦情などに適切に対応しているか」は下降。
⑤適正な管理・運営	B	B	B	A	B	・概ね同様の傾向である。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E.不十分

11. 緑町コミュニティセンター

1 施設概要

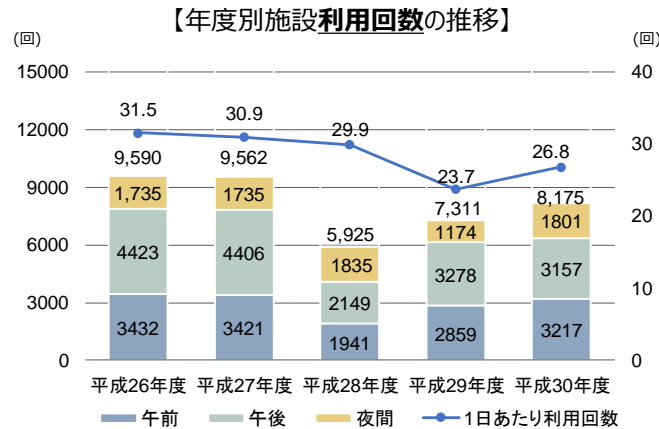
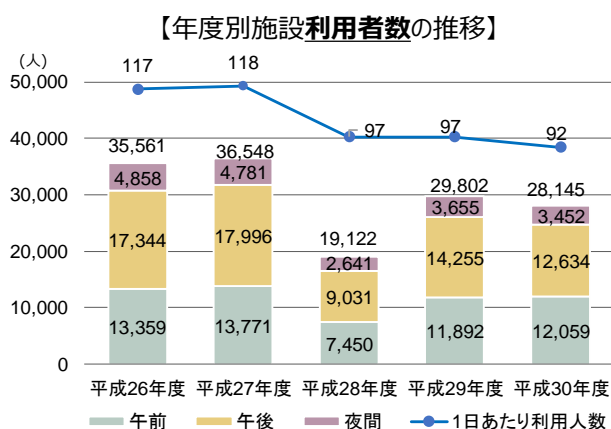
- 施設名 : 緑町コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 緑町コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0012 東京都武蔵野市緑町3丁目1番17号

- 開館時間 : 午前9時30分～午後9時30分
- 事業開始・開設日 : 昭和61年10月18日



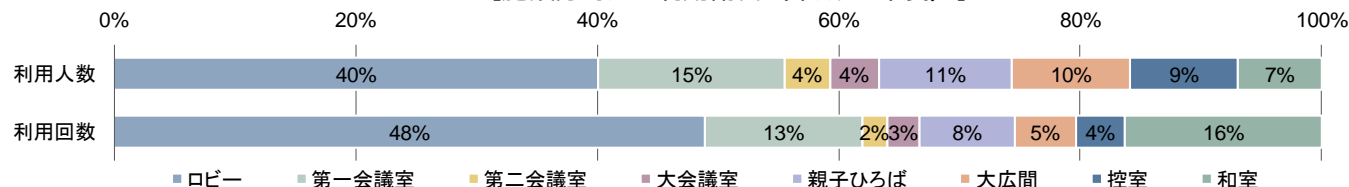
2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は28,145人であり、1日あたりの利用人数は92人（開館日数:305日）であった。過年度と比較すると、過去2年間の利用者数（総数）はほぼ横ばいであるが、長期で見ると減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で8175回、1日あたり利用回数は26.8回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、和室の利用割合が他と比べて高かった。



全施設平均 (平成30年度)
 総利用者数: 54789人
 総利用回数: 6220回
(※) 利用回数は30分単位で集計

【施設分野別の利用割合（平成30年度）】



3 主な実施事業

事業数: 16
(主催: 16 共催・協賛: -)

■ 特に注力している事業 (例)

- ＜輪投げで楽しもう＞
 - 都営第2集会場を借りて輪投げを開催した。
- ＜子どもまつり＞
 - ホールとプレイルームにてソーメン流しの他、ボーリング・スーパーボールすくい・輪投げを行った。

■ その他、特徴的な事業

- (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業 (例))
- 近隣の方々が毎回楽しみにしている「フリーマーケット」にはホール・プレイルームにて13のお店が開店した。野菜たっぷりカレーも販売し好評を得た。
- 見学研修で「明治なるほどファクトリー坂戸」の工場見学を実施し、楽しい研修となった。
- 「防犯教室」では、ホールにて振り込め詐欺防止をテーマに武蔵野警察安全課防犯係の方に講話してもらい、DVDを見て詐欺にかけられないように具体的に学んだ。
- 館内全体で地震発生後に火災が発生したことを想定した防災訓練を実施した。避難誘導訓練や消火訓練、支え合いステーションの机上訓練を実施し、運営委員で役割担当ごとに話し合い討論した。

／等

4 自己評価

【成果】

- 地域ふれあいまつりは、テニスコートを借りて子どもの遊び場として開放するなどの工夫もあり、地域の人々と協力して成功させることができました。
- 防災の取り組みで支え合いステーションの訓練が着実に進んだ。
- 窓口会議・運営委員会を毎月行い、その中で事業計画の立案、採用等について時間をかけて議論することができ、よりよい方向性を打ち出せた。
- 地域団体と協力して行事運営を行えた。

【課題】

- 「コミセンだより」作成の個人負担が重いので、今後分担制や編集委員会等について協議する必要がある。
- SNS等を活用した情報発信を行いたい。
- 施設設備の老朽化など改善が必要な点がある。
- 窓口対応・サービスの改善を行う。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	B	A	・②「運営委員会などの各種会合への出席」は改善。 ・⑥「運営委員・協力員確保のための努力や工夫」⑩「広報誌以外の方法での広報は十分か」⑪「文化祭など各種行事の呼びかけの工夫」⑫「文化祭など各種行事への参加は十分か」⑬「地域住民の積極的な参加」は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	B	B	B	・④「協議会主催の独自の企画や事業は、十分に行われているか」は改善。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	B	B	B	—	・イ「青少協地区委員会」オ「小・中学校」ケ「地元商店会」コ「防犯協会」とのネットワーク化は改善。 ・ア「地域社協」シ「老人クラブ」セ「高齢者福祉施設」ソ「障害者施設」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	A	B	A	A	A	・②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応は十分か」、③「利用者に不快な思いをさせた場合や苦情などに適切に対応しているか」は改善。 ・④「施設の利用方法等で工夫」⑤「窓口担当者同士の連携」は下降。
⑤適正な管理・運営	B	B	A	A	A	・⑥「予算」⑦「予算の使い方について、チェックや公表」は改善。 ・⑧「コミュニティセンターの管理運営に関するきまり・法令等」の遵守は下降。

※ A. 十分である B. ほぼ十分である C. どちらとも言えない D. やや不十分である E. 不十分

12. 八幡町コミュニティセンター

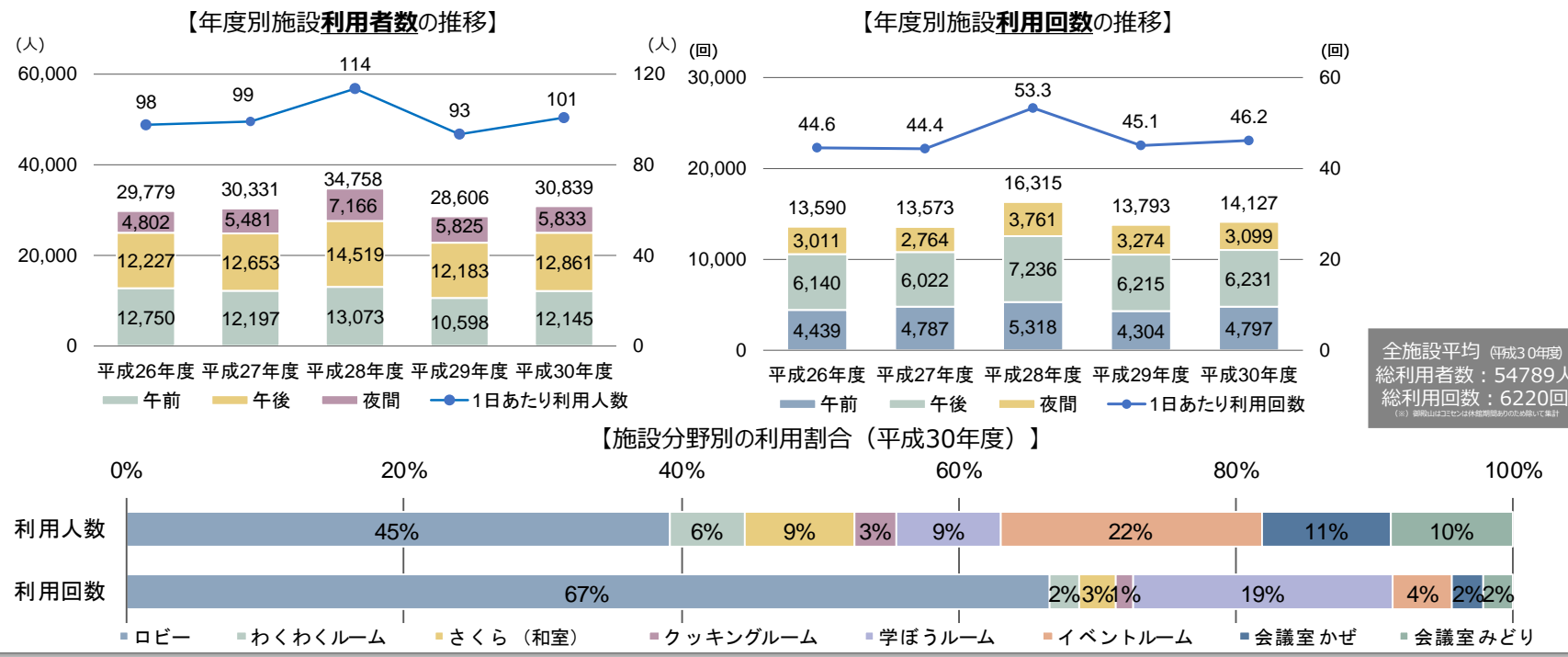
1 施設概要

- 施設名 : 八幡町コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 八幡町コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町3丁目3番16号
- 開館時間 : 午前9時00分～午後9時00分
- 事業開始・開設日 : 昭和55年5月27日 平成24年12月1日移転



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は30,839人であり、1日あたりの利用人数は101人（開館日数:306日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は減少傾向にあるが、昨年度と比較するとやや持ち直している。
- 利用回数（総数）は平成30年度で14,127回、1日あたり利用回数は46.2回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビーの利用割合が他と比べて極めて高かった。



3 主な実施事業

- 事業数：17 (主催：17 共催・協賛：1)
- 特に注力している事業（例）
 - <kidsクッキング>
 - 小学生対象の料理教室を開催した。
 - <はちコミ納涼会>
 - 模擬店・ゲームコーナーなどを実施。
 - <はちコミ広場>
 - 小学生を対象に実施し、工作やビーズアクセサリー作り、輪投げなどを楽しんだ。
 - その他、特徴的な事業
 - (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例）)
 - 運営委員・協力員を対象とした研修会で地震の科学館（東京都北区）を見学し、震度7の体験、防火訓練の一環として初期消火訓練を実施した。
 - 「春のフリーマーケット」では1Fに13区画を設営し、近隣の多くの方が来場した。地域の親交を深めた。
 - 近隣にあるMsガーデンの方を講師に招き、パンプキンケーキを作り地域住民との交流を深めた。
 - 八幡町と関前、緑町地区の住民が集まって、カラオケ大会を開催し、お互いに懇親を深めた。

4 自己評価

- 【成果】**
- 月1回の運営委員会に運営委員がきちんと出席し、意見を交わした。
 - コミセンの事業行事、施設利用について地域住民の良き理解を得られた。
 - 建物の不具合に対して、修繕依頼など迅速な対応ができた。
 - 利用者とのコミュニティづくりについて、窓口会議で常に方向性や活動状況を検討することができた。
- 【課題】**
- コミセンの事業への参加者や運営委員を増やす必要がある。
 - 地域のニーズに合った事業は少なく、取り組みが不十分であった。
 - 事業行事が今の時代に合っているかどうか検討する必要がある。
 - コミセンの利用者数がまだまだ十分でない。
 - 運営委員のコミュニケーションが不足している。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	C	B	B	B	・④「運営委員の確保」⑤「協力委員の確保」⑩「住民総会への呼びかけ」⑫「住民総会への十分な参加」は改善。
②コミュニティ活動の活性化	B	C	C	B	B	・②「その要求や課題について、何らかの取り組みを行いましたか」④「協議会主催の独自の企画や事業は、十分に行われていますか」は改善。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	C	B	B	-	・ウ「PTA」エ「保育園・幼稚園」ク「警察関係」コ「防犯協会」サ「消防関係」セ「高齢者福祉施設」ソ「障害者施設」とのネットワーク化は改善。
④利用しやすいコミュニティづくり	C	B	B	B	D	・⑤「窓口担当者同士の連携」は改善。
⑤適正な管理・運営	B	C	B	C	C	・①「やりがいや楽しさを実感できるような協議会の運営」②「協議会の会則や利用の決まりの十分な理解」⑦「予算の使い方について、チェックや公表」は改善

※ 平成27年度、平成28年度の個別設問に対する回答がなかったため、平成29年度と30年度の比較をもって近年の傾向とした。
 ※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分

13. 関前コミュニティセンター

1 施設概要

- 施設名 : 関前コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 関前コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0014 東京都武蔵野市関前2丁目26番10号
- 開館時間 : 午前9時30分～午後9時30分
- 事業開始・開設日 : 昭和56年5月11日

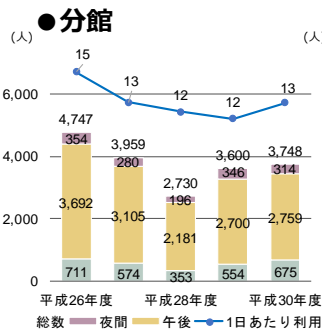
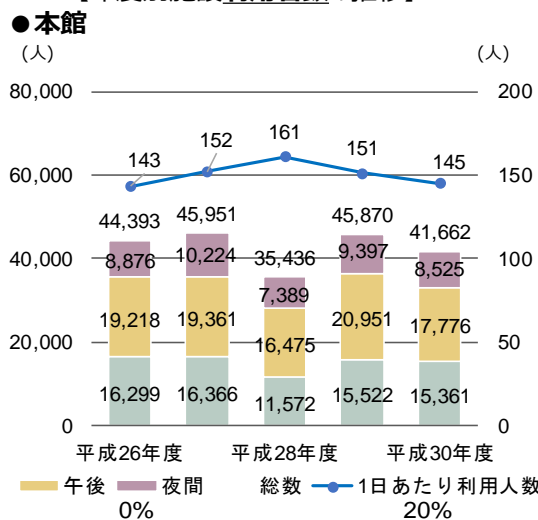
【所在地】



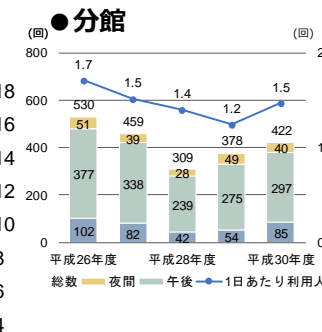
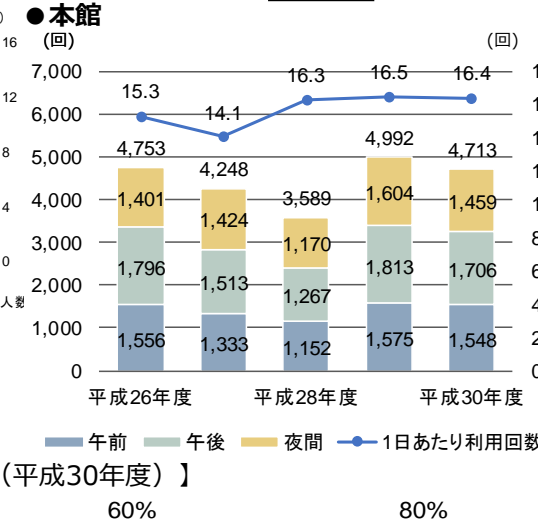
2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は本館41,662人、分館3,748人であり、1日あたりの利用人数は本館145人、分館13人（開館日数:287日）であった。なお平成28年度には2か月間休館している。
- 利用回数（総数）は平成30年度で本館4,713回、分館422回で、1日あたり利用回数は本館16.4回、分館1.5回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、レク室、音楽室及び学習室の利用割合が他と比べて高かった。

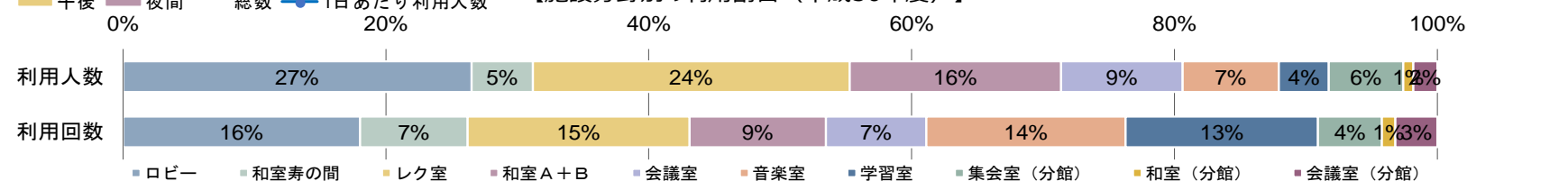
【年度別施設利用者数の推移】



【年度別施設利用回数の推移】



【施設分野別の利用割合 (平成30年度)】



全施設平均 (平成30年度)
総利用者数: 54789人
総利用回数: 6220回

3 主な実施事業

事業数: 21 (主催: 14, 共催: 協賛: 7)

- 特に注力している事業 (例)
 - ＜関前ミュージックフェスティバル＞
 - 利用者個人・グループ団体の音楽の祭典を開催した。
 - ＜七夕づくり (関前福祉の会共催) ＞
 - 幼児・小学生・高齢者を対象に、七夕飾りを作った。
- その他、特徴的な事業 (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業 (例))
 - 映画会を年4回実施し、映画を鑑賞した。
 - 講習会を年4回実施し、コースター作りやピラティス、絵手紙作り、男性向け料理教室を行った。
 - 「音楽とおしゃべりのティータイム」を年3回実施し、毎回テーマを決めて地域住民で交流を楽しんだ。
 - 「関前手打ちうどん作り」を実施した。
 - 健康づくりのため、親子の体操教室を年4回開催した。
 - 地域の中学生を対象とした「ナイトハイク」で、多摩湖を往復した。
 - 「子ども花火大会」にはおもちゃの店を出店するなどして、大勢の人々が訪れた。

4 自己評価

- 【成果】
- 若い世代が自主的にコミセンを利用するようになって、今後のコミュニティづくりの担い手として期待ができる。
 - 行事の取り組みについて、運営委員と窓口担当の連携がとれている。
 - 年間行事やコミセンの管理運営が順調に進められている。
 - 昨年に引き続き、運営委員の新規加入があった。
 - 行事・事業に対して協力して取り組んでいる。
- 【課題】
- 事業の継続にとどまらず、新規事業を立案する。
 - 音楽室を防音化する必要がある。
 - 行事参加者 (運営委員・協力員含む) の拡大や、市の行事との重複を改善する必要がある。
 - 窓口当番の夜間担当の高齢化が進んでいる。
 - 次回に生かすためにイベントの記録を行う。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	A	A	B	・①「運営委員会などの会合への呼びかけ」⑤「協力員の十分な人数の確保」は改善。 ・⑥「コミュニティの活動に、住民の方々は積極的に参加しているか」は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	A	B	B	・①「地域住民の要求や課題について、協議会で話し合う機会を持ちましたか」④「協議会主催の独自の企画や事業は、十分に行われていますか」は下降。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	B	A	B	—	・ア「地域社協」オ「小・中学校」キ「地元自治会・町内会」ク「警察関係」シ「老人クラブ」ス「赤十字奉仕団」セ「高齢者福祉施設」ソ「障害者施設」とのネットワーク化は改善。 ・エ「保育園・幼稚園」ケ「地元商店会」コ「防犯協会」サ「消防関係」タ「その他」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	A	A	A	A	A	・②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応は十分ですか」は改善。
⑤適正な管理・運営	A	A	A	A	A	・③「協議会の会則や利用の決まりを日頃から気をつけて運営」は改善。 ・②「協議会の会則や利用の決まりの十分な理解」は下降。

※ A. 十分である B. ほぼ十分である C. どちらとも言えない D. やや不十分である E. 不十分

14. 西部コミュニティセンター

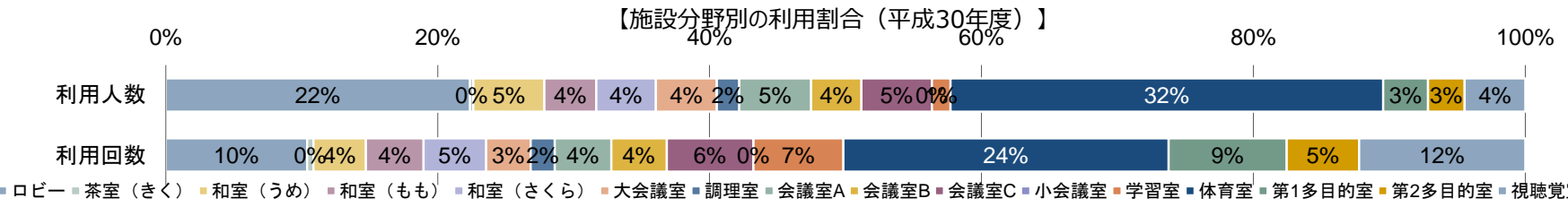
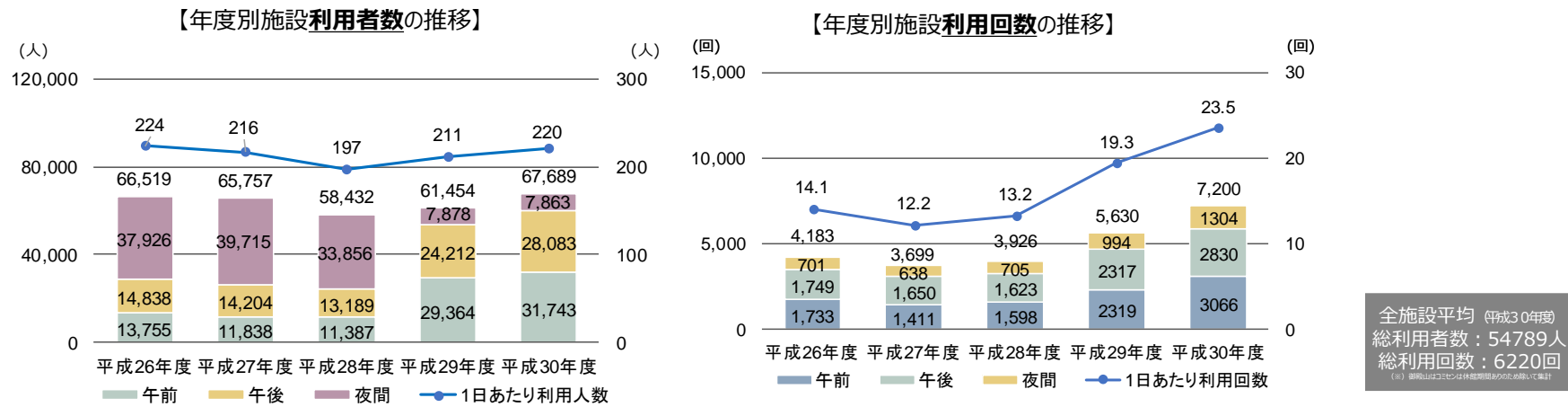
1 施設概要

- 施設名 : 西部コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 西部コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0022 東京都武蔵野市境5丁目6番20号
- 開館時間 : 午前9時30分～午後9時30分
- 事業開始・開設日 : 昭和62年4月18日



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は67,689人であり、1日あたりの利用人数は220人（開館日数:307日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は増加傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で7,200回、1日あたり利用回数は23.5回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数では体育室、視聴覚室、ロビーの利用割合が他と比べて高かった。



3 主な実施事業

事業数：21
(主催：18 共催・協賛：3)

- 特に注力している事業（例）
 - ＜気功・太極拳交流会＞
 - 桜堤コミセンの方々・小金井公園太極拳の方々を講師に招き、演武を披露してもらった。他のコミセンで活動している人々や一般の参加者も体験し、一体となって楽しんだ。
 - ＜卓球大会＞
 - 相手をこまめに替えて対戦するなど工夫したり、卓球ロボットとの練習を体験してもらったりした。スポーツを通じて繋がりが生まれた。
 - ＜ちびっこ運動会＞
 - かけっこ、玉入れ、ウインドアンサンブルの演奏などを実施。
- その他、特徴的な事業
 - (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例）)
 - ハロウィンには、仮装して窓口で「トリックオアトリート」と言うとお菓子がもらえるイベントを実施。コミセンを知ってもらうための広報活動の一環として行った。
 - コミセンを利用しているバドミントンサークル4団体と協力し、バドミントンのイベントを実施した。協議会と団体だけではなく、団体間の交流を産んだ。
 - 桜堤ケアハウスと市の高齢者支援課との共催で、地域認知症講座を開催した。

4 自己評価

- 【成果】
- 運営委員が積極的に企画の段階から参加し、来訪者のニーズは何なのかをよく検討した。
 - 今まで少なかった30～40代の運営委員を増やすことができた。
 - 情報発信にSNSを取り入れることができた。
 - 文化祭で新しい企画のワークショップを開き、大勢の参加者を迎えた。
- 【課題】
- 運営委員会等の出席率が高くなく、議事進行に全員の意見が反映されない。
 - コミセンの貸し出し器具や利用方法について改めて発信していく必要がある。
 - 「昔からこうだから」「協議会に入ったばかりだから」など、コミュニティ意識の低い言動を防ぎきれなかった。
 - SNSを使った情報発信を強化し、HPを作成する必要がある。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	A	A	B	B	・③「運営委員会の決定事項などについて、全委員への周知」④「住民総会の呼びかけの工夫」は改善。 ・①「運営委員会などの会合への呼びかけ」④「運営委員の十分な人数の確保」⑧「広報誌の年間発行回数は適当か」は下降。
②コミュニティ活動の活性化	C	C	B	B	B	・①「地域住民の要求や課題について、協議会で話し合う機会」②「その要求や課題について、何らかの取り組み」は下降
③コミュニティ活動のネットワーク化	C	B	B	A	—	・か「高校・大学」キ「地元自治会・町内会」シ「老人クラブ」とのネットワーク化は改善・ ・イ「青少協地区委員会」ウ「PTA」エ「保育園・幼稚園」コ「防犯協会」ス「赤十字奉仕団」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	B	A	A	B	B	・①「利用者の立場に立って、気軽に立ち寄り、気持ちよく利用できるよう、気をつけているか」②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応は十分か」④「施設の利用方法等で工夫」は下降。
⑤適正な管理・運営	B	B	B	A	B	・④「個人情報の保護について、適切に対応」⑥「予算」⑦「予算の使い方について、チェックや公表」⑧「コミュニティセンターの管理運営に関するきまり・法令等の遵守」は下降。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分

15. 境南コミュニティセンター

1 施設概要

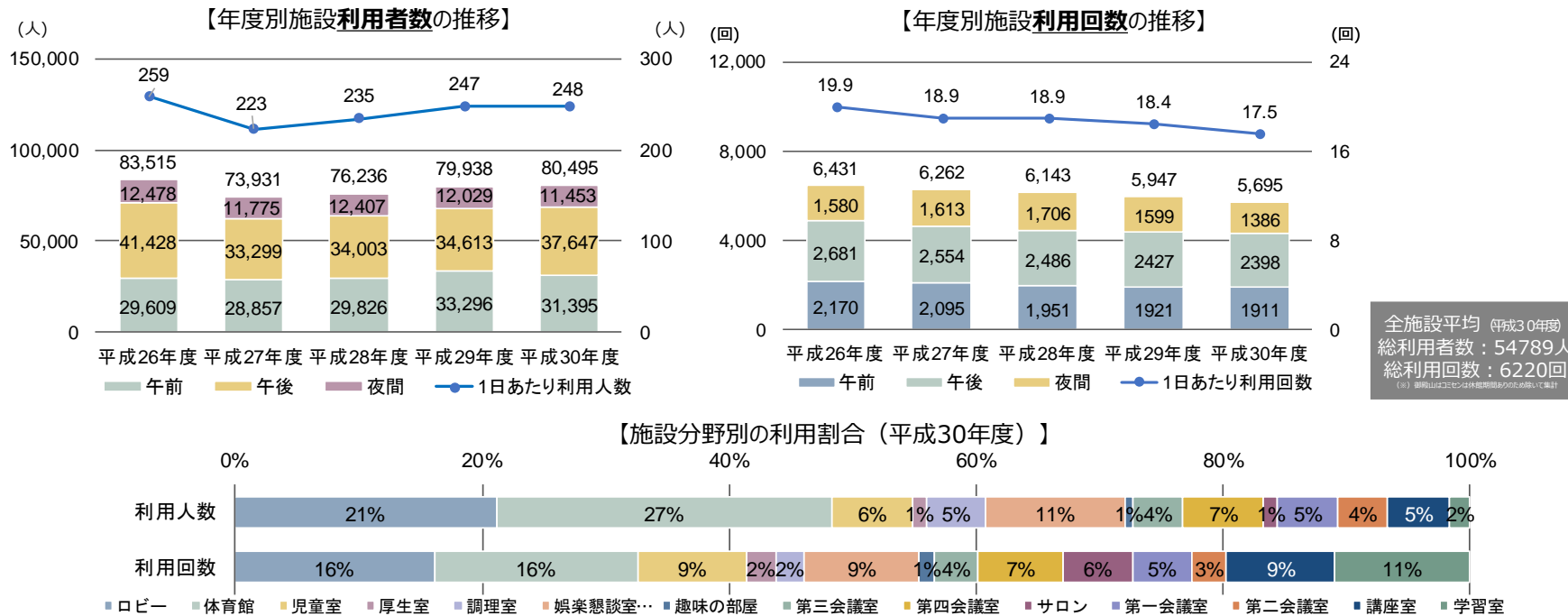
- 施設名 : 境南コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 境南コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0023 東京都武蔵野市境南町3丁目22番9号
- 開館時間 : 午前9時30分～午後9時30分
- 事業開始・開設日 : 昭和51年7月18日

【所在地】



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は80,495人であり、1日あたりの利用人数は248人（開館日数:325日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は若干ではあるが、増加傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で5,695回、1日あたり利用回数は17.5回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、体育館、学習室の利用割合が他と比べて高かった。



3 主な実施事業

事業数：29
 （主催：25、共催・協賛：4）

- 特に注力している事業（例）
 - ＜モーニングハイク＞
 - 去年は猛暑で中止したが、今年は早朝～お昼にかけて実施することができた。
 - ＜カラオケ大会＞
 - 境南町住民を対象に、文化祭の前夜祭として行った。見学者も多数訪れ楽しい時間となった。
 - ＜囲碁大会＞
 - コミセンの囲碁講座の受講生が練習成果を試す場として開催。
- その他、特徴的な事業
 - （※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例））
 - 体育室を利用する団体が中心となって、一般利用者を対象に卓球、バドミントン、ミニテニス等のイベントを行う「スポーツデー」を開催した。
 - 西部コミセン、桜堤コミセンとの共同事業として、カントリー＆ウェスタンコンサートを開催し、3コミセンの絆を深めた。
 - 青少年部の主催で、小学生を対象にクリスマス会を開催した。堺南小の保護者にも手伝っていただいた。

4 自己評価

【成果】

- 親子の利用者増加への取り組みが実り、文化祭や健康づくり支援センターとの共催事業等に多くの参加者を迎えることができた。
- 認知症サポーター講座を今年度から開始し、多くの住民に勉強してもらい、「認知症にやさしい境南町」を目指していくスタートの年となった。

【課題】

- 幼児・子供達と高齢者の利用は活発化しているが、ミドル層の利用が少ないため、これらの利用者を増やす事業を検討していく。
- 建物の老朽化が進んでいるため、事故防止に努めていく必要がある。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	A	A	A	A	A	・②「運営委員会などの各種会合への出席は十分か」⑤「協力員の十分な人数の確保」⑥「初めての運営委員・協力員に対し、適切な説明」⑩「広報誌以外の方法での広報は十分か」⑪「コミュニティの活動に、住民の方々は積極的に参加」は改善。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	B	B	B	・②「要求や課題について、何らかの取り組みを行ったか」③「その取り組みは、住民の方々に満足されたと思うか」④「協議会主催の独自の企画や事業は、十分か」は改善。
③コミュニティ活動のネットワーク化	A	A	A	B	—	・ケ「地元商店会」セ「高齢者福祉施設」は改善・ ・工「保育園・幼稚園」オ「小・中学校」ク「警察関係」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	A	B	B	B	A	・①「利用者の立場に立て、気軽に立ち寄り、気持ちよく利用できるよう、気をつけているか」②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応は十分か」④「施設の利用方法等で工夫」は改善。
⑤適正な管理・運営	A	B	A	A	A	②「協議会の会則や利用の決まりの十分な理解」④「個人情報の保護について、適切に対応」⑥「予算」は改善。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E.不十分

16. 桜堤コミュニティセンター

1 施設概要

■ 施設名 : 桜堤コミュニティセンター
 ■ 運営協議会名 : 桜堤コミュニティ協議会
 ■ 所在地 : 〒180-0021
 東京都武蔵野市桜堤3丁目3番11号

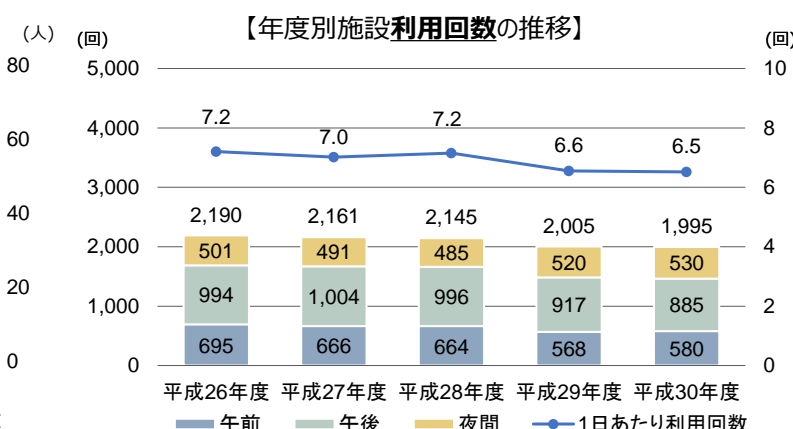
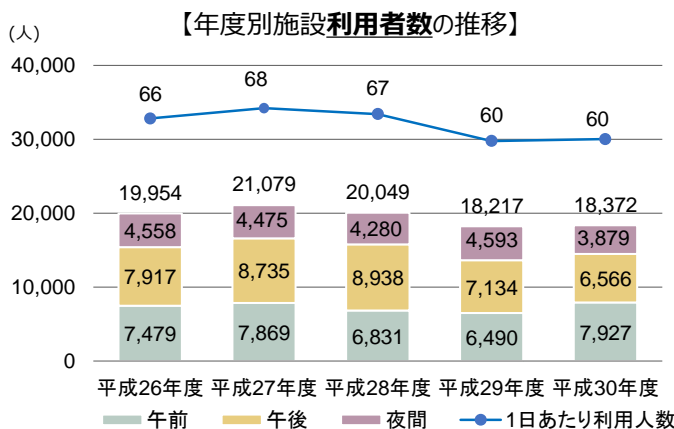
■ 開館時間 : 午前9時00分～午後9時00分
 ■ 事業開始・開設日 : 昭和57年3月27日

【所在地】



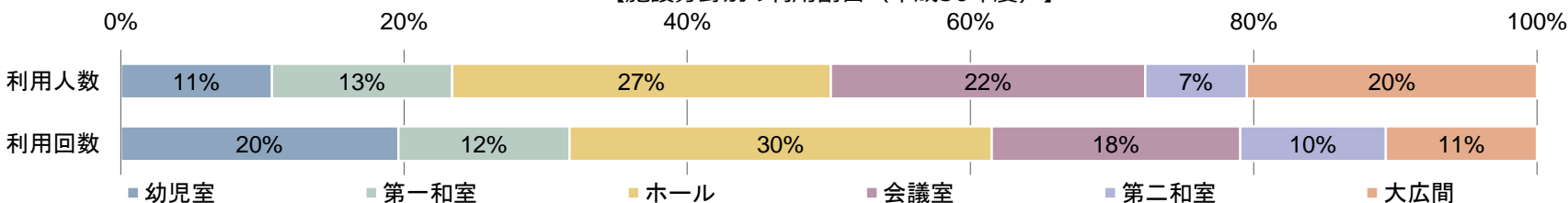
2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は18,372人であり、1日あたりの利用人数は60人（開館日数:306日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は若干ではあるが、減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で1,995回、1日あたり利用回数は6.5回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではホール、幼児室、会議室の利用割合が他と比べて高かった。



全施設平均（平成30年度）
 総利用者数：54789人
 総利用回数：6220回
（※）桜堤はコミュニティセンターのみのデータに基づいて集計

【施設分野別の利用割合（平成30年度）】



3 主な実施事業

事業数：17
（主催：14 共催・協賛：3）

- 特に注力している事業（例）
- ＜天体観望会＞
- 国立天文台天文情報センターから講師を招き、コミセンに隣接する上水北公園にて天体観望会を開催した。
- ＜人形劇＞
- NHK教育テレビでもおなじみの、地域の人形劇団「じろっぼ」を招き、夏休み期間に人形劇の上映を行った。
- その他、特徴的な事業
（※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例））
- 利用団体等との意見交換を行い、また消防訓練もかねて、りょうしゃ 懇談会を開催した。
 - 西部コミセン、桜堤コミセンとの共同事業として、カントリー&ウェスタンコンサートを開催し、3コミセンの絆を深めた。
 - 武蔵野市桜寿会との共催事業で、世代間の交流をはかることを目的に「子どもと大人の輪投げ大会」を開催した。
 - 運営委員の研修として、紙の再利用について考えるため、コアレックス三栄東京工場の見学等を行った。

4 自己評価

- 【成果】
- 運営委員会の出席率が高く、討議も順調に進む。
 - 子供が参加できる行事が多く行われ、参加者も増えてきた。
 - 行事の開催にあたって、運営委員一人一人が積極的に活動している。
 - 各種イベントを通して、地域の方々とのつながりが広がっている。
 - 運営委員はよくまとまっており、協力体制もできている。
- 【課題】
- 高齢化とともに、男性運営委員が少ないという偏りがみられる。
 - 地域の課題や問題などを話し合い、コミュニティづくりに結び付ける取り組みが少なかった。行事が多く計画や実行に振り回されている感があり、年間を通してじっくり考える場が必要である。
 - 施設の検討など非日常的な活動について役員だけで対応しているので、他の運営委員に対しては結果報告のみとなり、活動への関与が弱くなっている。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	A	B	A	A	A	※ 桜堤コミュニティセンターからの自己点検・評価表には過去5年間に對する個別設問への回答が一切なかった。それにより近年の傾向についての把握はできなかったため、未記入とする。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	A	B	B	
③コミュニティ活動のネットワーク化	A	B	A	A	—	
④利用しやすいコミュニティづくり	A	A	A	A	A	
⑤適正な管理・運営	A	A	A	A	A	

※ A. 十分である B. ほぼ十分である C. どちらとも言えない D. やや不十分である E. 不十分